

いじめは許さない！



早いもので、オリンピックのシーズンがやってきました。一流の選手たちが、決められたルールの中、スポーツマンシップとフェアプレーの精神を重んじ、日頃の練習の成果を遺憾なく発揮する世界最高の大会。相手選手に敬意を払う態度、仲間を思いやる気持ち。その大切さを子どもたちも応援を通して学ぶことでしよう。スポーツの場では、毅然とたたかう姿が尊敬と感動を集める反面、卑怯なやりかたは世界中の非難を受けます。子どもたちのヒーローはいつでも仲間を思い、堂々と揺らぎ無い信念をつらぬくのです。

しかし、そんなヒーローに憧れる反面、仲間をいじめ、絶望に追いやる子ども達もいます。集団でたった一人をいじめるのは、間違いなく卑怯でかっこ悪いことです。それを理解しながら、「皆もやっている」「いじめられる方に原因がある」など、自分勝手な理屈で自己弁護し、罪悪感も持たずに遊び感覚でいじめをエスカレートさせる子どもたち。先日、大津で起こったあまりにも悪質ないじめ事件の詳細を知るにつれ、子ども達を守るには思い切ったいじめ防止策の発動が必要だと痛感しました。いじめ被害者が引き起こした惨劇、コロンバイン高校銃乱射事件などを契機にいじめ防止プログラム立法化の動きが始まったアメリカでは、すでに92%の州でルールが施行されており、いじめ防止の顕著な実績が報告されています。日本でもいじめ防止に向けた早急な手を打たなければなりません。

月刊脊振

げっかんせふり

福岡県議会議員
(南区選出)
ひぐち明
県政活動報告誌



そこです。最初に、いじめを「遊びの延長」として罪の意識を持たない子どもに、いじめは犯罪であり、いじめるほうが100%悪いのだということをしつかりと認識させる必要があります。一般社会でいじめをすればどうなるでしょう？怪我を負わせれば傷害罪、持ち物を盗めば窃盗罪、言葉で誰かを脅せば脅迫罪で警察に通報され、逮捕されることとなります。このような犯罪がいじめという括りで学校内でおきたとしても、それは一般社会で起きる犯罪となら変わりないのです。つまりいじめは絶対にしてはいけないと子どもたちに自覚させなければいけないのです。

大人たちの毅然とした態度が子どもを守る

次に、いじめを「子ども同士のけんか」として責任外におこうとする教師、学校をはじめとする周囲の人々に、いじめの悪質性を認識してもらい、その早期発見、早期解決の義務があることを宣言させることが大切です。また、いじめは犯罪であるという認識のもと、加害生徒、そして隠蔽しようとした教師・学校には相応の罰則を設けることも大きな効果をあげられるでしょう。今回の大津の事件では、この問題が大きく社会で取り上げられて以降、これまで表に出てこなかった事実が次々と明らかになりました。いじめの事実を隠蔽し、自己保身にはしつた無責任な教師や学校には責任をとってもらわなければいけません。

いじめ問題では被害児童の保護が最優先ですが、告発者のプライバシー保護と安全対策も必要です。周囲の生徒がいじめを告発できないのは、次の標的にされる危険性があるからです。大人に言えばきちんと解決に向かって動いてくれる。そんな信頼を与えられる社会をつくるために、大人である私達がオンラインピック選手のように正々堂々とした姿勢を子どもに示しましょう。

南区トピックス

夏まつさかりです。夏のたのしみといえば花火大会や夏祭り。南区でも、各校区で、地元の皆さん手作りの楽しい夏祭りが開催されます。福岡市南区のホームページで日程をご確認いただけますので、ぜひ遊びに行ってみてください。